

受験生は学習の絶対量（学習時間の多さ）を確保する訓練をしよう

－ 9月からの模試での偏差値アップのために－

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 夏休みの勉強の大事さ

(1) 受験生はこれからのタイム・スケジュールを十分理解し、夏休みの勉強をすすめてもらいたい。

- ① 8月 模試（三者面談）
- ② 9月 模試（1～2回）
- ③ 10月 模試（1～2回）
実用英語検定試験
中間試験
- ④ 11月 模試（1～2回）
- ⑤ 12月 期末テスト
模試（1～2回）
三者面談
私立高校学業特待試験
- ⑥ 1月 私立高校併願・単願試験
- ⑦ 2月 県立高校推薦入学試験
- ⑧ 3月 県立高校入学試験

(2) 入学試験はもちろん最重要ですが、年内で最も大事なものは、11月下旬から、12月初にかけて各中学校で例外なく行われる三者面談（先生・受験生・親の三者がどこの高校を受験するかを話し合う会）です。中学校の担任の先生は、自分のクラスの教え子およそ40名全員が、必ずどこかの高校に入ってもらいたいと希望しています。自分のクラスから、高校進学を願っている子どものうち一人でも行く高校のない子を出したくないと思っています。つまり、確実に合格できる学校を受験したらどうかという指導になります。では、どこから確実に合格できるであろう学校を探し出すかということ、もちろん本人の希望も重要視はしますが、大部分は、9月～12月に行われる模擬試験の偏差値です。いくら本人の希望が強くても9月、10月、11月に行われる模擬試験で、希望高校に合格できるだけの偏差値がとれなければ、先生はもう少しやさしく合格できる高校をすすめます。別の言い方をすると、偏差値が十分でないと入学の願書や内申書をなかなか書いてくれません。

* 私立高校の入試がかなり難しくなり、かなり事前の準備がないと入学が困難となっています。

県立高校も、まだまだ、各市No.1校をはじめとし、入学はやさしくはありません。どこの高校に子どもたちを受験させるかを定める実務上のタイムリミットが私立高校入試の関係もあり、

12月の三者面談となりますので、いきおい中学の担任の先生は慎重にならざるを得ません。

(3)9月から11月に行われる模擬試験の重要さをどうか受験生は十分理解してもらいたい。9月から11月の模試で十分希望高校に合格する偏差値がとれなければ、希望高校の受験すら困難になるのですから。

では、どうしたら、9月から11月に行われる模試でよい偏差値がとれるのか。残念なことに、成績というものは急には上昇しません。じわじわと力がついて、ある時、パッと花が咲くように上がるものです。その科目の大筋(すじ)が十分わかるようになり、問題練習によりわかったことが得点にまで結びつかないと成績は上昇しません。みんなも必死に勉強していますから、一人ボーっとしていると一気ににおいていかれることを知ることも大事です。

(4)暑い夏休みですが、歯をくいしばり、9月からの模擬試験に向け、全ての精力を傾ける以外にありません。この夏、どのくらい勉強したかで9月からの模試の偏差値が決まります。難しい高校を受ける受験生はとりわけ大事です。一見、やさしそうな高校を受験する人でも、その高校を受験するのは、ほとんど自分と同じレベルの人ばかりなので、これまた本当の意味の競争は激しいと言えます。

2. 受験勉強で最も大事なものは勉強の絶対量(勉強時間の多さ)

よく「勉強の仕方がわからなくて困っている」、「勉強の仕方がわからないので机に向かえない」との相談を受けます。ただ「勉強の方法」を問題にする前に一つだけ大事なことがあります。それは、「勉強の絶対量(勉強時間の多さ)の確保」ということです。

学習効果＝学習方法×学習時間

いくらよい勉強方法をとろうとしても学習時間の絶対量が少なければ学習効果は生まれません。このあたりまえのことが、なかなかわからず、「勉強の仕方がわからず困っている。その結果勉強しない。」と避けてしまう人が多いようです。

一定の時間机に向かっている習慣を早く身につけることが大事です。もし、受験生であるにもかかわらず、勉強にすぐあきてしまう人がいたら、次のようにしてみてください。

(1)夜は12時まで起きている訓練をする。

*早朝勉強する人は別ですが、12時くらいまでは机に向かうことは受験生としてあたりまえのことです。何が何でも12時までには眠らないぞ、という決意のもと、起きている訓練をすることも大切です。

(2)12時まで机に向かう訓練をする。

*ただ目を開けていればよいというのでははなしになりません。勉強する場所に着席し、机に向かう訓練をして下さい。TV・ラジカセ・CDなどの視聴は論外です。

(3)12時まで起きていて机に向かい文字を読む訓練をする。

*マンガは学習マンガに限ります。中学生が読むものならどんな内容でもOK。何も読むものがないければ、新聞をスミからスミまで読む訓練をすることも非常に有効です。とにかく、まとも

な文字を夜 12 時までかけて静かな状態の中で読む訓練をすることが大事です。

学習時間の絶対量が不足している、机になかなか向かえず困っている受験生は、以上三つの訓練を今日からスタートし、夏休み中に自分の体を勉強できる状況にまでもって行って下さい。12 時まで起きていられること、ラジカセ・TV・CD・電話なしで、つまり静かな状態の中で堅い文字を追える、読めるようになる訓練をすること。これが今一番大事です。

何を、どのように勉強するかということは、その次の問題です。夏休み中に是非勉強の絶対量確保のための「訓練」を実施して下さい。

3. 9 月～11 月の模擬試験の偏差値をアップさせるための方法

開倫塾の夏期講習会、8 月分授業に休まず出席し、毎回の授業の予習と復習を先生の指示通り、ていねいに、ていねいに実行すること。これが、一番確実です。なぜなら、開倫塾の階級カリキュラムは、すべて受験生の希望高校合格にまとを当ててつくってあり、三者面談と 9 月、11 月までの模試の重要性は、全職員十分認識し万全の準備をしているからです。10 年間研究に研究を重ねた結果のカリキュラムですので安心してついてきて下さいますようお願いいたします。

ただ、自分でやりたい場合は、当たり前のことですが、各模擬試験の各科の出題範囲表を机の前にはり出して、模試までに何回も自分でこれぞと決めた教材をスミからスミまで覚え込むことが第一。過去の同時期に出題された模擬試験の問題を最低で 3 年分、できれば 5 年分大研究。よくできない問題は徹底的に調べつくし、できるようにする。よくできない範囲を明確にし、何種類も問題集を買いその範囲だけでもよいから、大量の問題練習をする。

知恵ある者は知恵を出し、知恵なき者は汗を出せ

4. 先月号の開倫塾ニュースに書かせていただいたことばをもう一度思い出して下さい。

人間はみな平等なものとして生まれました。勉強ができるとか、できないとかいうのは、その分野を時間をかけてやったかやらなかっただけなのです。もし不十分なところがあるのなら、時間をかけて勉強をしさえすればよいのです。こと受験勉強に関していえば、夏の努力は必ず冬報われます。どうかだれに遠慮することなく、思いきり時間をとってこの夏は机に向かって下さいますよう。